

# その時、消防・市役所は？

昨年の豪雨で、柳川市では、沖端川・矢部川の堤防決壊により、甚大な被害が出ています。柳川市では市全域に避難勧告が発令され、サイレンの吹鳴やメール配信、車両拡声器などで避難広報が行われましたが、サイレンの吹鳴が何を意味しているのか分からなかった人が多かったと聞きます。

また、一人暮らしの高齢者を隣近所の人が支援するなど、地域の人たちが協力して避難をさせました。



避難所では、関係機関との連絡が不十分で、避難所の運営に支障が生じたそうです。災害の規模が大きくなればなるほど、行政の対応力は小さくなります。また、消防署や市役所が被災することもあります。

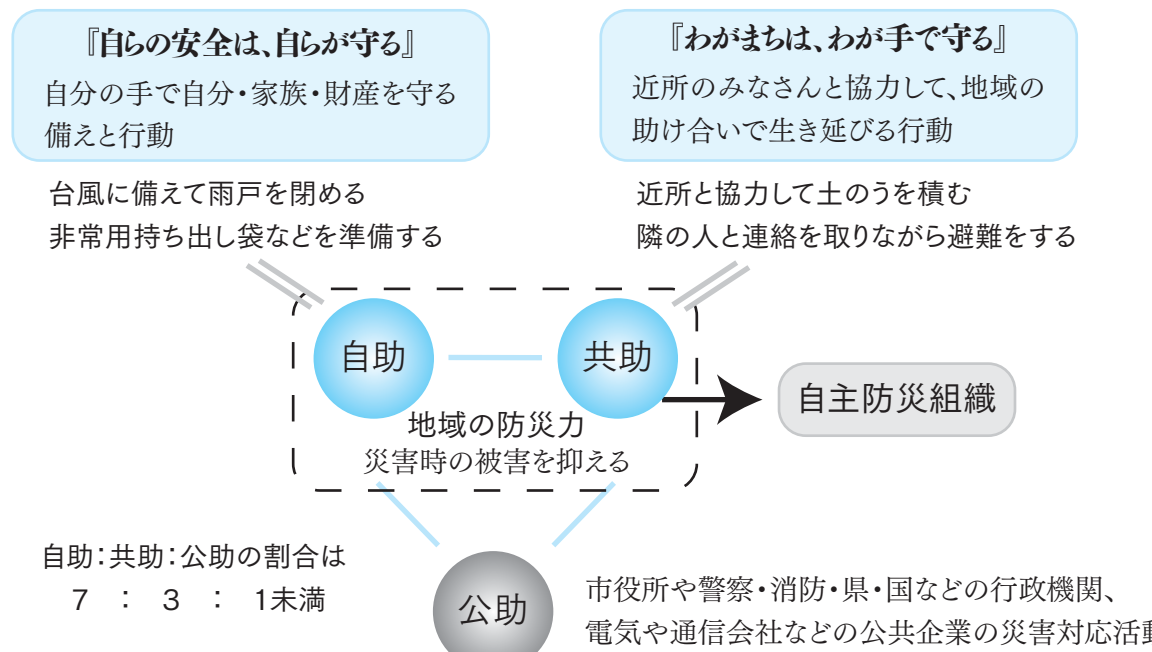
阪神淡路大震災では、生き埋めや閉じ込められた人の救助割合は、自力または家族によるものが約67%、隣近所や通りがかりの人によるものが約30%、自衛隊や救助隊の救

助はわずか1.7%にとどまっております。いかに自力での避難や家族からの救助が重要か、また、隣近所の助け合いが大切かを物語っています。

## 【水防サイレン】

種別	サイレン信号	知らせる内容
第1信号 (警戒信号)	5秒吹鳴 ● 15秒休止 --- 5秒吹鳴 ●	河川の水位が、はん濫注意水位 (警戒水位) に達したこと。
第2信号 (水防機関招集信号)	5秒吹鳴 ● 6秒休止 --- 5秒吹鳴 ●	水防機関に属する人が直ちに出勤すべきであること。
第3信号 (水防関係招集信号)	10秒吹鳴 ● 5秒休止 --- 10秒吹鳴 ●	市の区域内に居住する人が応援に出勤すべきであること。
第4信号 (避難信号)	1分吹鳴 ● 5秒休止 --- 1分吹鳴 ●	必要と認める区域内に居住する人は避難すべきであること。

『自らの安全は、自らが守る』が防災の基本  
災害に対応する活動は、早く始めるほど、多くの人が参加するほど被害を小さく抑えることができます。



# 自主防災組織とは？

大規模災害時には行政、個人や家族の力だけでは限界があります。

大規模災害が起こった場合、隣近所の人たちが互いに協力し合い、防災活動に取り組むことが必要です。

地域の住民が行政区や町内会を基本として、自主的に連携して防災活動を行う集まりが自主防災組織です。



大川市では現在、36の自主防災組織が設立されています。

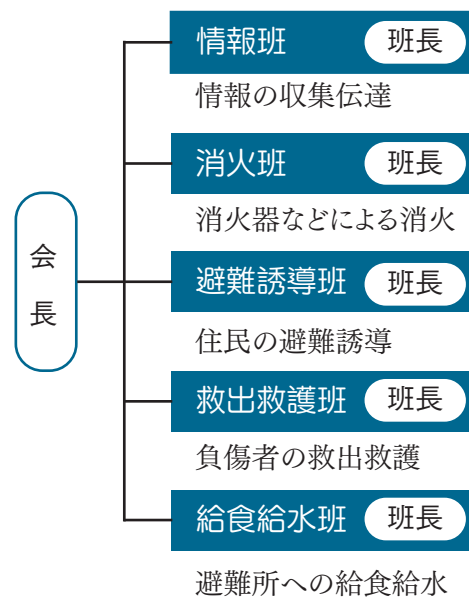
自主防災組織は、日頃から地域の安全点検、災害時要援護者の把握、防災知識の普及、防災訓練の実施など被害を最小限にとどめるための取り組みを行います。

また、災害が発生した際には、災害情報の伝達、避難誘導、被災者の救出・援護活動を行うなど非常に重要な役割を担っています。

地域社会とのつながりや隣近所との結びつきが希薄化する中、自主防災組織の設立

は、地域の防災力を高めるだけでなく、地域社会のつながりを維持・復活することになります。

## 自主防災組織の編成例



## 自主防災組織の主な活動

### 平常時の活動

項目	具体的な活動内容
災害に備える活動	防災資機材の整備 備蓄品の管理
被害を防ぐための活動	緊急連絡名簿の作成 地域の危険箇所の把握 地域の避難路、避難場所の把握 防災マップの作成
災害時の活動の習得	消火訓練、避難訓練 給食給水訓練
普及啓発活動	防災に関する講演会開催 啓発チラシの作成

### 災害時の活動

項目	具体的な活動内容
情報収集・伝達活動	被害・救援情報の収集と伝達 防災機関との連絡
初期消火活動	消火器などによる消火活動
避難誘導活動	住民を避難所へ誘導 住民の安否確認
救出救護活動	負傷者の救出救護 医療機関への連絡 介助が必要な人への手助け
給食給水活動	食料、飲料水の調達と炊き出し 救援物資の受領、分配